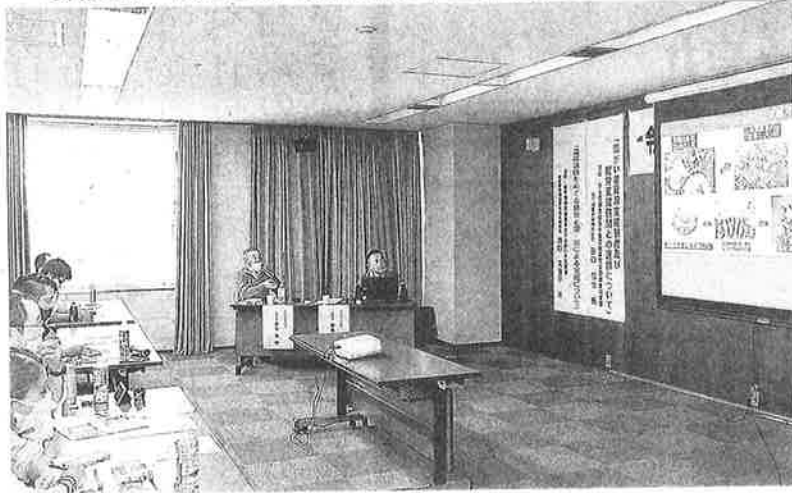


2020年（令和2年）10月31日 土曜日

「農福連携」の先進的な取り組みなどが紹介された
研修会＝岐阜市六条南、岐阜産業会館



「農福連携」取り組み学ぶ

福祉施設職員対象、岐阜市で研修

障害者が農業の新たな担い手となることで社会参加を推進する「農福連携」をテーマにした研修会が、岐阜市六条南の岐阜産業会館であり、県内の福祉施設職員ら約50人が他県の先進的な取り組みなどを学んだ。高齡化により担い手が不足する農業と障害者の雇用促進を目指す福祉の両関係者が、互いに理解を深める契機にするため、県とぎふアグリチャレンジ支援センターが毎年開いている。事例発表では、全国に先

駆けて農福連携に取り組む就労継続支援B型事業所さんさん山城（京都府）施設長の新免修さん、管理者の藤永実さんが講演した。事業所を利用する聴覚障害者らが、耕作放棄地を借りて地域の伝統野菜エビイモや田辺ナスを栽培したり、野菜を使ったランチを提供する活動を紹介。新免さんは「利用者には『障害者でも』できる仕事ではなく、『さんさん山城だから』できる仕事を提供していくことが大切」と語った。（山田雄大）